

4年 道徳

節度・節制 1 - (1)

番組名 「迷々時々」

放送回 第38回
「もうひとりのぼく」

実践者 岡山市立御南小学校 教諭 森永進

誰の心の中にも潜む「迷う気持ち」。主人公の「葛藤」「揺れ」そして選択した「行動」を、子どもたちに、時に苦い気持ちで見てもらい、自らに引き寄せて考えることをねらいとした番組である

番組の使い方

活用のねらい

空想の無理な願いを映像化した番組を視聴することで、仮にそういう行為をすることでどうなるか具体的に起きる事態を知ることができ、番組の話に入り込み自分の本音を表出する活発な話し合い活動を展開したい。ホラータッチに演出された構成で、予想できる展開以上に起きる事態の深刻さを理解し節度ある行動をとることの大切さに気付かせたい。

具体的な手立て

- ・新学期になり、自分の立てためあてを思い出させ、うまく実行できているか考えてから、どうやったらうまく実行できるかのきっかけとなる番組の視聴することを伝えた。
- ・時々迷々の問いかけに素直な自分の気持ち(判断)を表出できるようワークシートに書かせてから、話し合いをした。

授業の概要（1時間扱い）

本時の目標

登場人物(ジンの)気持ちと行動について考えるを通して、自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をしようとする態度を養う。

「学期始めに立てためあてはどうなっているか」と問いかけ、考える

。(3分) ・うまくいっている。 ・なかなかできない。 ・忘れた。

番組視聴(15分)

・いつも勉強をあとまわしにしていつも叱られているジンが、ある朝鏡に映っている「もうひとりのぼく」に声かけられる。ジンの都合のよいように入れ替わりながら過ごしているうちに、鏡の「ぼく」がジンと取って代わりうとする。どうにか難を逃れ、しなければいけないことをすることの大切さに気付く。

感想交流(12分)

・好きなものだけ食べ、好きなことだけやるジンの生活を羨ましいと思うかについて、考えの交流をする。

感想交流(12分)

・ジンが最後の迷々からの問いかけに対して、どんなことを思ったかの考えの交流をする。

まとめ(3分)

自分のめあての達成に向けて、自分の生活を振り返り、めあてに向けて取り組む励みとする。

生き生きと学ぶ子どもの姿

どの子も内容を理解し、意欲をもって

ホラータッチで展開を楽しみながら、仮想の世界を違和感なく入り込み、展開に興味をもちながら、しっかりと視聴している姿が見られた。授業後のアンケートでも、大半の子が授業の面白さに肯定的であった。

番組活用と、ワークシートで活発な話し合い

少し不思議で、こわいなと思いつつも、結果に対してなにごとがつながったか、ということ真剣に考え、自分の考えをワークシートに書き込み、友達と考えと比較して活発に交流することができた。

指導を終えて

善悪の判断がはっきりしている内容であるため素直な自分の気持ちの吐露を期待できない展開になる予想をしていたが、番組の演出のよさや、ワークシートに書き込むことをしてからの話し合いのため、多くの子どもたちの考えが出る活発な授業展開ができた。

